

大学の研究グループが史料調査

古文書の目録作成

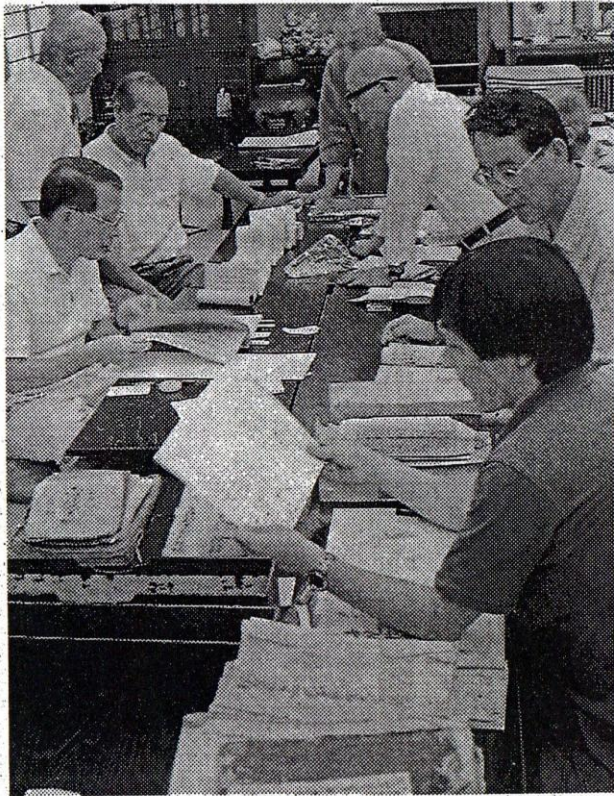
吉井 仁叟寺 すべてを体系的に整理

吉井町神保の仁叟寺(渡辺啓司住職)で二十六日から二十八日までの三日間にわたり、都内の大学教授と同町の文化財調査委員らが協力して古文書の調査を実施。同寺に伝わる貴重な古文書の解読作業が行われ、目録が作成された。

研究者らは膨大な量の史料と格闘、協力しながら一つひとつの古文書の分析を行った。渡辺住職は「これ

まで、一部の文書が調査されたことはあったが、すべての古文書を体系的に整理し、目録としてまとめたことはなかった。これをきっかけに古文書の歴史的な価値が解明されれば」と期待を寄せている。

同寺は室町時代の一五二二年に開山。以来、戦禍や火災に遭わず開山当時の本堂が残っており、さまざまな種類の貴重な古文書が伝わっている。今回の調査には、立教大学の藤木久志名誉教授、早稲田大学の外園豊基教授を中心とする研究者グループと、町の文化財



寺に伝わる古文書を調査する大学教授と町文化財調査委員ら

大学の研究グループが史料調査

古文書の目録作成…吉井仁叟寺 すべてを体系的に整理…